

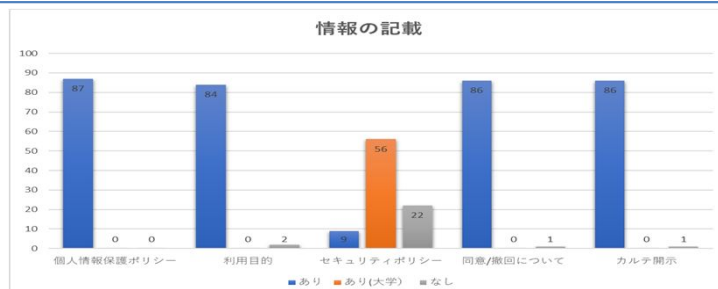
医療機関の患者情報の取扱いに関する情報提供についての研究

Study of the provision of information on the handling of patient information by medical institutions

新水美代子 法制・倫理分科会 情報セキュリティ大学院大学

背景

- 医療情報は電子化が進んでいる（レセプト、電子カルテ、医療機器、検査機器等）
- 患者情報がデジタル化されたことで守るべき情報量が増加し、複雑化した
- 医療機関のインシデントが増加しているためセキュリティの重要性は高まっている
- 患者に様々な医療情報を提供し、治療選択の一助をするサービスも増加している



特定機能病院（高度医療を提供する認定を受けた病院）87施設での公開情報を調査したところ、病院独自でセキュリティポリシーを公表している病院は少数であった

目的

市民が医療機関に対して望むセキュリティ対策について調査し、医療機関が直接市民にその情報を伝えることがどのような効果をもたらすかを考察する

先行研究の調査

- 一般市民に対するアンケート：
健康保険証や診察カードの代わりにマイナンバーカードやスマホを利用するのはセキュリティ面で不安 50.9%（2021年調査）
- 医師会関係者に対するアンケート：
病院でなりすましメールの受信経験あり53%
サイバーセキュリティ事案発生時の対応手順の整備について、文書化された形でルールが整備されている医療機関は、15%弱～25%強（2020年調査）

先行研究では、医療機関のセキュリティ対策に対する市民の考えを調査するものは見つからなかった

今後の研究

- 医療機関に起こっているインシデントを調査し、その影響ととられた対策を分類する
- 市民が医療機関のセキュリティについて不安を感じていると医療の高度化や効率化を進めるのは難しい。セキュリティに関して医療機関が現状のセキュリティ対策をどのように考えているか、市民は医療機関の対策についてどのように考えているかをアンケートで調査する

2つの調査結果を分析し、市民の信頼を得て医療の高度化・効率化を進めるためにはどのようなセキュリティ情報を市民に提供すべきかを考察し提案する